

平成 25 年 7 月 23 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 平成 25 年 7 月 23 日 (火曜日)
午後 1 時 30 分から午後 3 時まで

2 場 所 大島小学校 会議室

3 出席委員

委員長 大橋 岑生 委 員 羽賀 友信 委 員 中村 美和
委 員 青柳 由美子 教育長 加藤 孝博

4 職務のため出席した者

教育部長	佐藤 伸吉	子育て支援部長	矢沢 康子
教育総務課長	若月 和浩	教育施設課長	中村 仁
学務課長	田村 均	学校教育課長補佐	竹内 正浩
子ども家庭課長補佐	波多 文子	保育課長	栗林 洋子
中央公民館長補佐	山田 宏	中央図書館長	金垣 孝二
科学博物館長	山屋 茂人	学校教育課主幹兼管理指導主事	大矢 慎一
学校教育課主幹兼管理指導主事	笠原 徹	学校教育課主幹兼管理指導主事	山之内方史

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐	茂田井裕子	教育総務課庶務係	平澤 司
学校教育課企画推進係長	野池 康一	学校教育課学校支援係長	金澤 俊道
学校教育課指導主事	八木 義克		

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 34 号	長岡市立学校管理運営に関する規則の一部改正について
3	第 35 号	平成 26 年度使用教科用図書採択について

7 会議の経過

(大橋委員長) これより教育委員会 7 月定例会を開会する。

日程第 1 会議録署名委員について

(大橋委員長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 44 条第 2 項の規定により、中村委員及び加藤委員を指名する。

日程第 2 議案第 34 号 長岡市立学校管理運営に関する規則の一部改正について

(大橋委員長) 日程第 2 議案第 34 号 長岡市立学校管理運営に関する規則の一部改正について を議題とする。事務局の説明を求める。

(笠原学校教育課主幹兼管理指導主事) 本規則の改正理由は、事務長及び事務主任の職務を明確にすることにより、学校経営に生かすとともに新規採用事務職員等の支援を行うことである。改正内容としては、事務長及び事務主任の職務を新たに明記した。事務長の職務は、所属校の事務の総括、所属校の方針決定への参画、経営計画の立案、実施及び評価、学校事務共同実施グループ内の学校事務についての指導助言などである。事務主任の職務は、所属校の方針決定への参画、経営計画の立案、実施及び評価、対外的な調整連絡などである。施行期日は平成 26 年 4 月 1 日からとする。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 事務長は全ての学校にいるわけではないようだが、何人になるのか。

(笠原学校教育課主幹兼管理指導主事) 事務長は 12 の学校事務共同実施グループのグループ長に対して発令を予定している。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

日程第 3 議案第 35 号 平成 26 年度使用教科用図書の採択について

(大橋委員長) 日程第 3 議案第 35 号 平成 26 年度使用教科用図書の採択について を議題とする。事務局の説明を求める。

(山之内学校教育課主幹兼管理指導主事) 小・中学校で使用する教科用図書は採択替えの年度の翌年度から原則として 4 年間、毎年度同一の教科用図書を採択することとなっている。小学校は平成 22 年度に、中学校は平成 23 年度に採択されたため、平成 26 年度教科用図書は平成 25 年度と同一のものをお願いしたい。学校教育法附則第 9 条の規定により、特別支援学級及び特別支援学校で使用する一般図書については、各学校の児童生徒の実態に即して毎年度採択替えができる。平成 26 年度の一般図書については、各学校長の意見を尊重して資料のとおりお願いしたい。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

(大橋委員長) 本日の日程は終了する。次に協議報告事項に入る。報告事項として、

西谷地区の子どもの教育を考える懇談会会議報告について、事務局の説明を求める。

(田村学務課長) 西谷小学校の統合について、7月3日に地元からの要望に対する教育委員会の方針を説明する懇談会を開催した。地元からは区長や保護者など15名が出席した。保護者は全8世帯が参加し、そのうち2世帯は両親揃っての出席であり、期待が込められていると感じた。会議では教育委員会の方針を説明した後に出席者と意見交換を行った。今後、平成27年4月の統合に向けて予算編成などの準備を着実にを行い、必要に応じて意見交換の場を持つこととしたい。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 今後も地元との交流会を行っていくということか。

(田村学務課長) そうである。

(加藤教育長) 保護者の心配は、我が子が多数の集団に溶け込めるかどうか、児童自身も大丈夫だろうかという不安がある。大人が話を詰めるのは大事だが、子ども同士の交流が大事である。学校間の交流はどのくらい計画されているか。既に始まっているのか。

(田村学務課長) 両校で話が進んでおり、先週、西谷小学校の1年生から4年生が栃尾南小学校を訪問して交流した。今後も児童同士の交流を進めたい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、平成25年度長岡市の児童生徒・保護者・教員意識調査の結果について、事務局の説明を求める。

(竹内学校教育課長補佐) 本調査は平成18年度以来7年ぶりに実施した。目的は長岡市の児童生徒・保護者・市立学校の教員を対象に、学校生活や家庭生活の現状及び学校教育や家庭の教育力等に関する意識を把握することにより、教育課題を洗い出し、今後10年間を見据えた教育施策全体の方向性を探るためである。回答人数は、児童生徒が小学校3年生から中学校3年生までの16,941人であり、内訳は小学生9,448人、中学生7,493人である。保護者は約20%を目処に抽出してアンケートを送り、3,866人から回答を得た。教員は常勤の教員1,510人から回答を得た。最初に児童生徒に対する調査結果について説明する。学校での様子や授業について、「学校に行くのが楽しいですか」との問いに対し、小・中学生の9割を超え

る子どもが「楽しい」と回答した。「とても楽しい」と回答した子どもが前回調査より10%以上増加したが、「全く楽しくない」、「あまり楽しくない」と感じている子どももわずかにいた。授業で「わかる」、「できる」と感じている割合は、小学生91.3%、中学生83%で、前回調査より上昇していた。家庭生活の状況について、「平日の夜は、何時ころに寝ていますか」、「自分が必ずする手伝い(きめられた仕事)がありますか」との問いに対し、中学生は約6割が午後11時過ぎに寝ているとの結果になった。朝食をいつも食べる子どもは小・中学生ともに80%を超えていた。家庭で自分に決められた手伝いがあるかどうかについて、小学生は約8割、中学生は約7割程度が「ある」と回答した。家庭学習等の状況について、「平日に家庭学習(宿題を含む)をだいたいどのくらいしますか」との問いに対し、前回調査よりも家庭学習時間が全体的に増加する結果となった。「学習塾(英会話も含む)に通っていますか」との問いに対し、小学生の27.5%、中学生の41.4%が学習塾に通っていた。携帯電話やパソコンについて、「携帯電話にアクセス制限機能はありますか」との問いに対し、小学生は約2割、中学生は約4割が「ある」と回答した。家にインターネットにつながるパソコンがある家庭についての質問で、「自由にインターネットを使うことができますか」との問いに対し、小学生は約5割、中学生は約8割が「自由に使える」と回答した。町内とのかかわりについて、町内のお祭りや運動会などの地域行事への参加は、小学生が中学生より割合としては高く、中学生の参加率は前回調査より上昇し、行事に参加したことがある割合は小学生62.7%、中学生42.7%であった。「長岡が好きですか」との問いに対し、「とても好き」「わりと好き」が小学生で約9割、中学生で約7割であり、どちらも前回調査より上昇した。将来の夢について、「将来の夢がありますか」との問いに対し、小学生90.1%、中学生76.1%が「将来の夢をもっている」と回答した。「熱中していることや大好きでハマっていることはありますか」との問いに対し、小学生95%、中学生89.6%が「ある」と回答した。次に保護者と教員に対する調査結果について説明する。学校行事への参加状況について、学校行事に「積極的に参加している」、「ある程度参加している」という保護者は、小学校95.4%、中学校79.3%であった。中学生になると「参加しない」という保護者の割合が増える傾向にある。教員から見た子どもの実態について、「学力の二極化の傾向が見られるか」との問

いに対し、「そう思う」、「ややそう思う」が前回調査の 81.5%から 88.1%に上昇した。「ちょっとくらい嫌なことや苦しいことをがまんできない子どもが増えている」との問いに対し、90.2%が増えていると回答した。学校ではどんな力を身に付けさせるべきかについて、教員、保護者ともに、「読み、書き、計算などの基礎学力」、「友達をつくることや他人とのコミュニケーション能力」、「きまり・ルールを守ろうとする意識や他人を思いやる心などの道徳性」が上位3項目となった。家庭での子どもへのしつけについて、「子どもにきちんとしつけをしている方だと思いますか」との問いに対し、「そう思う」「どちらかというそう思う」と回答した保護者が 85.8%であった。しかし、「家庭では、子どもにきちんとしつけをしていると思いますか」との問いに対し、「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した教員は 44.3%であり、保護者と教員の意識に差が生じていた。家庭の教育力について、保護者、教員ともに「家庭の教育力が低下している」と回答した割合は前回調査よりも減少している。しかし、その理由や割合は保護者と教員とで異なり、保護者は「過保護な親や過干渉な親が増えた」と回答した割合が最も高く、教員は「しつけや基本的な生活習慣を学校に依存しすぎる傾向がある」が最も高くなった。家庭、地域、学校の連携について、ほとんどの保護者が、子どもの教育のために、家庭、地域、学校が連携、協力することの必要性を感じていた。実際に「自分の学校区で連携、協力が十分にできているか」との問いに対し、「そう思う」「どちらかというそう思う」と回答した割合は前回調査よりも上昇している。教員が多忙であるかについて、小・中学校ともに教員の9割以上が「そう思う」「ややそう思う」と回答した。その理由として、小・中学校ともに児童・生徒指導の難しい子どもの増加を挙げている。「熱中！感動！夢づくり教育」が知られているかについて、教員の 90.4%、保護者の 40.2%が、「だいたい知っている」、「少しは知っている」と回答した。教員には知られているが保護者には知名度が低く、今後の検討課題である。保護者、教員から寄せられた自由記述について、保護者からは 650 通もの回答が寄せられ、回答の多かったものとして、「教育施策の充実」が 34%、「教員の資質・指導力向上」が 24%であった。教員からは 373 通の回答があり、回答の多かったものとして、「教員の多忙化解消」が 40%で突出していた。今後、調査結果を更に分析し、まとまった段階で報告したいと考えている。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(青柳委員) 全体をとおして予想より良い意味で都会化していないと思った。塾に通う割合や、携帯電話の所持率が低かったためである。数値が問題なのではなく、携帯電話、パソコンを正しく使っているのか、また家庭での子どものしつけ方を親が身につけているのかが重要である。お手伝いに関しては、子どもが自分でやる仕事がある割合が低かった。新聞を取りに行くという簡単なことだけでもいいので、家族の一員としての役割を与えた方が子どものしつけにつながると思う。

(大橋委員長) 小学生が疲れて朝起きるのが辛いということだが、要因分析でその理由を知りたい。塾へ通うからか、スポーツ少年団に入っているからか、部活動なのか、その要因を知りたい。平成 18 年度は熱中！感動！夢づくり教育が始まって 2 年目であり、本調査はその頃との比較だが、良い形で事業が進んでいると評価している。しかし、保護者が熱中！感動！夢づくり教育を知らない割合が高いように感じる。広報活動が足りないのか、子どもを見ていないのか、学校との関係によるものか、こちらについても分析してほしい。また、「人間関係づくりやコミュニケーション能力が低下している子どもが増えている」、「ちょっとくらい嫌なことや苦しいことをがまんできない子どもが増えている」について、前回調査との比較がないので明らかにしてほしい。「学習意欲の低下している子どもが増えている」は割合が減少していて良いと思う。前回調査との比較を行い、今後の施策に反映させてほしい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、平成 24 年度児童生徒の問題行動等について、事務局の説明を求める。

(竹内学校教育課長補佐) 児童生徒の問題行動について、いじめ、不登校、暴力行為に分けて説明する。まず、いじめについては、小学校で平成 23 年度に 18 件、平成 24 年度に 23 件発生しており、5 件増加している。23 件の内、22 件が既に解決しており、残る 1 件について継続支援中である。中学校では、平成 23 年度に 20 件、平成 24 年度に 22 件発生しており、2 件増加している。22 件の内、21 件が既に解決しており、残る 1 件について継続支援中である。いじめの主な内容は、小学校、

中学校ともに、「冷やかしゃからかい」、「嫌なことをさせられる」が多数を占める。いずれも早期発見により心身を著しく傷つけるような深刻ないじめではなかった。いじめ解消に向けての取組みについては、各小・中学校において、いじめを見逃さない「いじめ見逃しゼロスクール」や、小・中学校及び保護者、地域と連携して行う「いじめ見逃しゼロスクール集会」に継続的に取り組むことで、いじめを見逃さないという気運が高まっている。いじめはどの学校でも、どの子どもにも起こりうることを教職員は認識している。常に初期対応で迅速かつ丁寧な対応を行い、深刻ないじめの発生を防いでいる。次に、不登校について説明する。不登校の定義は年間30日以上欠席者としている。平成24年度は小学校で26人、中学校で178人であった。不登校の主なきっかけは、小学校では「不安など情緒的混乱」、「家庭生活環境の変化」、「親子関係をめぐる問題」が多い。中学校では「不安など情緒的混乱」、「無気力」、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」が多い。中学校は「中1ギャップ解消プログラム」で、自校プランの定着、スクールカウンセラー等による相談体制の充実、小中連携体制強化による成果が上がっている。小学校は平成23年度が54人であったため、人数が減ってきている。逆に中学校は平成23年度が161人であったため、人数が増加している。その原因は、小学生の時に不登校だった児童が中学校へ進学したためである。過去5年間の数値を分析したところ、主に、男子は小学5年生と中学1年生、女子はそれよりも1年遅れの小学6年生と中学2年生で多いということがわかった。地域性や不登校の理由などに一定の方向性があるかについて、分析を継続している。最高学年になる小学5年生から6年生に進級する時や、小学校から中学校に進学する時など、つなぎの時期の対策を考える必要がある。最後に、暴力行為について、平成24年度は小学校4校で6件、中学校11校で31件、合計37件であった。平成23年度は合計31件であったため、6件増加している。主な内容としては、小学校は器物破損が1件、生徒間暴力が5件、中学校は器物破損が9件、生徒間暴力が15件、対教師暴力が6件、対人暴力が1件であった。暴力行為に対しては、毅然とした対応をとりながらも、問題行動を起こす子どもの背景、家庭環境、子どもの特性を考慮した指導を行っている。子どもふれあいサポート事業も有効に機能しており、再発防止に繋がっている。また、教育委員会と警察との間で定期的に情報交換を行い、必要に応じて迅速に対応している。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(加藤教育長) いじめは人間関係のトラブルであるため、起こり得るものと考えて油断せず、学校への指導をきちんと行ってほしい。不登校の定義として年間 30 日以上の欠席者とあるが、例えば、35 日休んでも立ち直って出席してくる子どももいる。逆に短い期間しか休んでいなくても問題を抱え続ける子どももいる。そこに焦点を当て、問題の根底に何があるのかよく見ながら、個別に対応しなければならない。

(青柳委員) いじめは早期発見により大事に至らずに済んで良かったが、たまたま早期発見できたのか、学校の努力によるものか。

(八木学校教育課指導主事) 早期発見のためにアンケートを日常的に実施している。学校によって多少の違いがあるが、担任は児童生徒と毎日情報交換している。小学校ではいじめられた児童の保護者からの訴えで発覚することが多い。中学校は担任が発見することが多い。発達段階の違いで小学生はなかなか自分から声を出せないが、中学生は自分から発信して、周りもいろいろな角度から生徒を見ているため、早期発見に繋がっている。

(羽賀委員) メールを使ったインターネット内のいじめについて、どのように把握しているか。データはあるか。

(八木学校教育課指導主事) インターネット内でのいじめや誹謗中傷は、昨年度は数件あった。昨年度は、新潟県が国の緊急雇用対策を活用し、インターネット内でのいじめに対応する専門職員を採用した。県内の各教育事務所に配置され、深く広くインターネットのトラブルをチェックした。その結果、長岡市教育委員会に 10 件程度の報告があったため、該当校に連絡して指導した。今年度の特徴としては、小学生による公衆無線 LAN 環境下における SNS の使用等による誹謗中傷が 5 件と増えている。昨年度には見られなかったことである。ゲームによるインターネット接続に関する保護者の理解を促す啓発活動が必要である。

(羽賀委員) 保護者が気づいていないことが問題なので、このような実態と可能性を保護者に啓発してほしい。

(大橋委員長) 適応指導教室への通学はどのような扱いか。

(八木学校教育課指導主事) 適応指導教室に通う児童生徒については、校長の判断

により出席扱いとしている。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、「ながおかハイスクールガイダンス」の開催について、事務局の説明を求める。

(竹内学校教育課長補佐) 今年度新規事業で「ながおかハイスクールガイダンス」を8月21日に開催する。開催主旨は、長岡市内及び近隣の高等学校、高等専門学校がアオーレ長岡に一堂に会し、高校生等から中学生に自校の教育について説明してもらったり、学習内容を実際に体験させてもらったりすることで、特色や校風を知ってもらい、進路選択の参考としてもらうことである。なお、保護者や一般市民も参加できる。午前、午後とも同じ内容であり、市内及び近隣の高等学校全19校による学校紹介ブースでの自校の紹介や、その内の8校による体験ブースでの授業体験などを実施する。中高連携事業の意味合いも含めて実施したい。なお、総合支援学校高等部も参加予定である。中学生1,100人、保護者300人の参加を見込んでいる。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(中村委員) 参加できる学年に制限はあるのか。

(竹内学校教育課長補佐) 学年による制限はない。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、「アイスブレイクの会」の実施について、事務局の説明を求める。

(竹内学校教育課長補佐) 「アイスブレイクの会」は平成24年度に立ち上がった会であり、不登校の児童生徒を持つ保護者が健康センターを会場に集まり、臨床心理士に自分の子どもの悩みについてアドバイスを受ける会である。5人から6人のグループで悩みを共有しながら解決策について考えている。平成24年度は6回開催し、31名が参加した。相談件数は22件であった。今年度も既に2回開催しており、5名が参加した。今回は屋外での親子活動を企画した。引きこもりがちな子どもを連れ出し、親子でバーベキューやレクリエーションをしながら、参加者同士で

悩みを共有し、不登校からの脱出の糸口を図るためのものである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(中村委員) 親子活動を実施するのは今年度が初めてか。

(竹内学校教育課長補佐) そうである。

(加藤教育長) 我が子が不登校の親は悩み、周囲になかなか相談できないものである。また、学校の先生や親族からいろいろ言われることもあり、切ないものである。保護者に不登校の傾向がある場合もあるので保護者のカウンセリングも行っている。その場合、保護者が元気になれば子どもも元気になる。公民館などで集まるのではなく、たまには外でやるのはどうかという試みである。今回は夏休み期間中の実施であるが、今後は平日も実施してはどうか。検討してほしい。

(羽賀委員) 教育委員会らしい良いプログラムである。「コスモスの会」という引きこもりの子どもをもつ親の会もあるが、非常に苦労している親の実態がある。親に対する家庭内暴力に繋がるケースもあるため、完全な引きこもりになる前に解決に導くことが重要である。

(大橋委員長) 終了後に是非報告願いたい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、第1回長岡市水族博物館協議会会議報告について、事務局の説明を求める。

(山屋科学博物館長) 7月10日に長岡市寺泊文化センターを会場に開催した。本協議会には、協議会委員9名、教育部長、寺泊支所長、それから、施設の老朽化に伴う今後の整備の方向性について協議するため、担当の政策企画課職員などが出席した。報告事項は平成25年度事業実施状況について、協議事項は水族博物館の今後の整備の方向性についてであった。委員からは、バスで水族館ドキドキ体験の利用促進のため、秋にも各学校に周知したらどうか。年間の収入と管理運営費はどのくらいか。今後の整備について、寺泊らしい海を活用した方向で検討してほしいなどの意見や質問が出た。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(青柳委員) 入館料はいくらか。

(山屋科学博物館長) 大人 700 円、中学生 450 円、小学生 350 円、3 歳以上の幼児が 200 円である。なお、団体割引もある。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、大英博物館展示交流講演会「縄文 / JOMON へのまなざし」の開催について、事務局の説明を求める。

(山屋科学博物館長) 昨年度、長岡市内の遺跡から出土した火焰型土器、王冠型土器を大英博物館で展示したが、その交流事業として、大英博物館から 2 名の学芸員を迎えて講演会を行う。8 月 4 日の午後 1 時 30 分からアオーレ長岡にて開催する。今回来日するのは、女性研究者のニコル・クーリジ・ルーマニエール氏とサイモン・ケイナー氏の 2 名である。お二人とも日本文化を紹介するエキスパートで日本語も堪能である。コーディネーターは馬高縄文館名誉館長の小林達雄先生にお願いする。事前申込みで人数は集まりつつあるが、教育委員の皆さんにもお越しいただきたい。また、翌日の 8 月 5 日には、市内の小学校 6 年生から中学生を対象にした「大英博物館こどもキュレーター入門講座」を予定している。世界的な視野で学習できる良い機会なので、多くの市民から参加いただきたい。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、特別展「栃倉式土器をさぐる」 - 発掘された縄文時代の大集落・栃倉遺跡 - について、事務局の説明を求める。

(山屋科学博物館長) 馬高縄文館で 7 月 20 日から 9 月 1 日まで開催する。栃倉式土器は斜め線が入り、渦巻き模様の下に縄目模様も入っていることが特徴であり、およそ 5 千年前のものである。栃尾地域の刈谷田川右岸段丘に出土している。同じ種類のシンプルな形の土器は長野県中野市からも出土している。皆さんからも是非お越しいただきたい。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(加藤教育長) この遺跡の特徴はどのようなところか。

(山屋科学博物館長) 同じ遺跡からいろいろなバリエーションの土器が発掘されており、一種のリズムを感じる場所である。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。他に報告事項はないか。

(波多子ども家庭課長補佐) 教育委員の皆さんから出席いただく成人式の日程確認をお願いしたい。8月14日の山古志地域は中村委員、15日の三島地域は大橋委員長、与板地域は中村委員、和島地域は青柳委員、中之島・寺泊地域は加藤教育長にそれぞれお願いしたい。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。他に報告事項はあるか。これをもって協議報告事項を終了する。

(大橋委員長) 本日は、定例会の前に栖吉小学校、大島小学校を訪問した。委員の皆さんの意見、感想はいかがか。

(青柳委員) 栖吉小学校を訪問して感動した。ハートが書いてあるシートに自分が今感じている漢字を一文字書いて掲示していた。例えば、曾おばあちゃんが亡くなり悲しかったので、最初は「悲」と書いた子どもが、それを知った友達から悲しがってばかりではいけないと言われ、未来に繋がる「未」に変えるというエピソードがあった。この取組みを通じて、子どもたちがお互いの弱さを認め合い、良い関係を築くようになり、教室内で相手を傷つけるような言葉を慎むようになったそうである。校長先生のコメントで、学力向上は教師の資質を高めることで達成できる。心を育てることによって学力は自然と身につくという言葉に感動した。1年生の授業で中庭に池を作っていたが、先生が指導するのではなく、児童がそれぞれ自分の役割を開拓して活動していた。

(大橋委員長) 栖吉小学校では、地域の人材、保護者、学校の3者が連携している。ようこそ「まちの先生」事業を活用し、図書館での読み聞かせや整備を、保護者以外の司書免許を持つ方なども継続して携わってくれている。クラブ活動も地域の方たちが継続して指導してくれている。1年生から6年生まで子どもたちは落ち着いた

て明るい。先生方はベテランと若手の関係が良く、好感の持てる授業を展開していた。

(中村委員) 大島小学校には「ことばの教室」があり、専門性を備えた先生がことばの発出がうまくできない子どもに対して指導をしている。本日も集団になると話せなくなる子どもを指導していた。学校内で指導を受けられるのは保護者にとってありがたいことである。1日のカリキュラムの途中で自分の教室ではなく「ことばの教室」で指導を受ける訳だが、他の子どもからからかわれずにうまく行われていた。学区内に長岡赤十字病院があり、そちらに出向いて授業を行う院内学級もある。入院中に学力に差が出ないように工夫していた。また、ユニバーサルデザインによる学力の定着を図っていた。先生方の板書も子どもたちのノートも綺麗であった。教室のロッカーに子どもたちそれぞれの国語辞典が置いてあったが、使い込んでいた様子であった。小学校1校、中学校1校の学区であるため、小中連携に力を入れている。特色があり、力のある先生が多いと感じた。

(羽賀委員) 大島小学校は英語活動に力を入れており、日常的に英語で挨拶するような取組みを行っていた。習熟度別クラスを試行的に導入しており、児童の理解を大切にしたい安心でわかりやすい授業を行っていた。長岡赤十字病院の院内学級などには専門性の高い先生がいて、持っている力が十分、発揮されているようである。

(加藤教育長) 大島小学校は、大型ショッピングセンターを抱える地域にある学校で、大人にとっては好都合だが、子どもの成育には必ずしもベストとは言えない立地である。しかし、校長先生を中心に力のある先生方ががんばっているため、安定していると感じた。

(大橋委員長) これをもって本日の定例会を終了する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員